

薬剤耐性菌対策における 迅速な表現型細菌検査の重要性について

2024

2/10

SAT

12:20 - 13:20

座長

三鴨 廣繁 先生

愛知医科大学医学部 臨床感染症学講座

場所

第8会場

パシフィコ横浜ノース 3F

G314+315

演者

山岸 由佳 先生

高知大学医学部 臨床感染症学講座

大城 健哉 先生

那覇市立病院 医療技術部検査科

本学術総会ランチョンセミナーは整理券制となります。

■配布日時 2月10日（土）8：00～11：50（※無くなり次第、終了）

■配布場所：パシフィコ横浜ノース 1階 <参加受付付近>

参加を希望されるセミナーの整理券をお取りいただき、セミナー入場時にお弁当とお引換えください。

整理券配布はお一人様1枚限り、先着順のうえ、無くなり次第、終了となります。

入場は整理券をお持ちの方を優先させていただきます。

セミナー開始5分経過後、整理券は無効となります。



RaST-TASの有用性を考える

遺伝子検査は薬剤耐性菌検査において最も活用されている方法の一つである。遺伝子検査では、対象とする遺伝子の有無を検査するため対象外の遺伝子は検出不可である。また、耐性遺伝子がサイレント遺伝子である場合には、薬剤感受性試験では感性和判定される。抗菌薬の曝露の有無によって、菌体の形態が伸長あるいは膨化など変化することが知られている。ヒト体内で抗菌薬の曝露を受けることにより、サイレント遺伝子が発現することもあることから、

菌の形態変化を捉えるなどの表現型検査が実臨床を反映しているとも言える。表現型を活用する方法として予め用意された阻害薬の存在下において菌体がどのように変化するかを短時間に知ることによる薬剤耐性菌検査がマイクロ流路という新しい技術を利用して開発された。本講演ではマイクロ流路を利用した表現型検査であるRaST-TASを含めた今後の表現型検査も含めた検査の可能性について述べる。

高知大学医学部 臨床感染症学講座

山岸 由佳 先生

RaST-TASの臨床貢献への期待と課題

近年、薬剤耐性菌による感染症が問題となっており、迅速な検査結果報告が求められている。薬剤耐性菌の迅速検出方法として耐性遺伝子を検出する方法があるが、検査項目に含まれない遺伝子型の検出は不可能であることと、検出された耐性遺伝子が発現していない可能性があるなどの課題がある。一方、薬剤耐性菌の表現型を迅速に確認する方法には、EUCAST RAST法や全自動薬剤感受性検査装置によるMIC法などがあるが、迅速性に課題がある。

2023年6月、グラム陰性桿菌の薬剤耐性因子である β -ラクタマーゼについて、3時間で推定可能となるRaST-TAS β -ラクタマーゼ・スクリーニング試薬キットが発売された。本試薬キットの使用経験を通して得られた臨床貢献への期待と、本試薬キットをさらに活用するための課題について述べる。

那覇市立病院 医療技術部検査科

大城 健哉 先生